第　99　号
2019年8月22日　発行
発行責任者　工藤　忠男
編集責任者　藤身　隆雄
TEL　0479 24 2225
http://choshi-geopark.com/

特集　親子で夏の自由研究ツアー

主催：銚子ジオパーク推進協議会
共催：銚子ジオパーク市民の会

例年大人気の“親子で夏の自由研究”第一弾「ヤドカリの行動を探る！」が7月20日、千葉大学海洋バイオシステム研究センターで行われた。小学生10名と保護者で総勢20名、千葉大の菊池先生に助手の学生さん2名が加わって教室は満員御礼。蒸し暑いが曇り空で強い日射しがないのは助かる。

ヤドカリのお家さがし　藤本京子

まず、先生のお話。ヤドカリの食べ物は生物の死骸やかけら、つまり雑食で“海のお掃除屋さん”。エビやカニの仲間だが硬い殻を持たないので身を守るため、主に巻貝の殻をお家に背負ったまま移動。この大切なお家をどのようにして手に入れるかがテーマ。

実験の失敗を恐れず、その原因をつきとめるのも立派な研究です。

次は一番のお楽しみのヤドカリ採集。センター横の海岸から長崎鼻の磯へと移動、引き潮の岩礁の磯でヤドカリを捕まえる。昼食後、万力（貝殻を壊す道具）を使ってヤドカリを取り出しそれぞれのテーマを持って観察。喧嘩を始めたり、中のヤドカリを追い出しサッとお尻から潜り込んだりと子供達をワクワクさせる。瞬く間に終了の時間となり、先生にお礼を言いヤドカリを大事そうに抱えて帰っていく。面白い観察レポートが出来るかな。

千葉大
海洋バイオシステム研究セセンターで

目指せ！　化石博士！！　出口　節

8月3日快晴、長崎海岸に集合して干潮の海に入り化石探しをした。珍しい形や色模様を見つけては「これ何？」と尋ねる。暑さ等忘れた2時間超。11時半、地域交流センターに移動して昼食休憩。いよいよレプリカ作りだ。

水に焼石膏を入れて割箸でかき回し、適度の硬さになったら型に入れて固まるまで焦らずに待つこと。この間、岩本専門員から①化石とは？②銚子は化石の宝庫等についての充実した講義が質疑応答形式で進められた。今回は恐竜時代のアンモナイトと三角貝だけはピンク色に仕上げたが、ホホジロザメ等3種類の鮫とヒゲクジラ、ハクジラの耳周骨と鼓室胞等は無着色。作業は大変微妙で、硬さや型からの取り出し方次第で成功か否かが決まる。失敗した親子に、房州会員が「後で作りましょうね」と優しいことばかけをする。

楽しく充実した自由研究の一日だったようだ。

「砂浜の宝石を探そう」砂の世界を見てみよう　田中　豊

八月十日（土）標記の自由研究ツアーが開催されました。講師は山内専門員で、参加者は15名（内2名は午後のみ）でした。

当日は天候に恵まれ、定刻に出発し、フィールドワークに、君ヶ浜では砂鉄をネオジウム磁石で集めたり、砂の観察をして楽しみました。

次に犬若海岸に行き、君ヶ浜の砂との違いを観察後、子供たちは砂浜で蟹を追いかけたりして自由に遊びました。

シーズマリーナで昼食後地域交流センターに戻り、「砂とは何か」のテーマで、礫、砂、泥の違い、砂に含まれているもの等の講義を受けた後、砂の中の宝石探しのための標本作りの開始です。

君ヶ浜の砂と砂鉄、犬若の砂、前日に用意した利根川河口の砂を比べます。このうち砂鉄はさらに磁性のあるものと無いものに分け、合計六個の標本を実体顕微鏡で観察し、それぞれの特徴を比較しました。また保護者にはスマホ用の拡大鏡も用意して、観察撮影して貰いました。砂鉄中の磁性無し標本からザクロ石や輝石などを見つけて皆興奮気味でした。

今回も自由研究の完成は家に帰ってからの宿題となりました。どのように仕上がるか楽しみです。

「貝殻標本を作ろう」　松家英彦

7月21日、梅雨の合間のまずまずの天気で、親子30名が参加、講師は房州勝也さん（ジオガイドの房州文子さんの息子さん）、事務局と市民の会がサポートしました。

午前中は長崎海岸で貝殻採集を行い、午後は地域交流センターの教室で、なぜ銚子の磯で色々な種類の貝が取れるのか、何を食べているか、そして貝殻標本のつくり方の説明がありました。

次に貝殻標本作りです。まず、2枚貝か巻き貝か、形や色で仕分けし、貝殻図鑑の資料を見て名前を探しました。「この貝はクボガイかな、これはムシロガイかな」と子供たちは、初めて目にする貝の名前を見つけ、目を輝かせカードに名前を書いていました。また、「この貝は何ですか？」と聞かれ、素人の私は「先生に聞いて下さい」と促し、房州先生は子供達に囲まれ、やさしく丁寧に説明をされていました。きっと、銚子の磯の思い出が詰まった貝殻標本ができたと思います。